

インド、宇宙大国への野望

イーストスプリング・アジア・ナウ

Vol.63

eastspring
investments

インドの宇宙開発

国家プロジェクト：無人月面探査機「チャンドラヤーン2号」

- ▶ インドは、今年7月に無人月面探査機「チャンドラヤーン2号」を打ち上げました。チャンドラヤーンはサンスクリット語で「月への乗り物」という意味です。チャンドラヤーン2号は順調に月周回軌道に乗り、9月初旬に世界初の月の南極付近への着陸を予定していましたが、月面への降下中に交信が途絶え、着陸に失敗したと見られています。
- ▶ 今回の月面着陸は残念な結果となりましたが、インドは宇宙開発に力を入れており、今後も挑戦が続くと見られます。
- ▶ モディ首相は6月に「私たちは自らの宇宙ステーションを持つことが願いだ」とも述べています。また、2022年までに有人宇宙飛行の実現も目指しているとのこと。

インドの宇宙開発の軌跡

1969年	インド宇宙研究機関（ISRO）設立
1975年	初の人工衛星「アーリヤバタ」を打ち上げ
2008年	月周回人工衛星「チャンドラヤーン1号」打ち上げ成功
2014年	探査機「マンガルヤーン」の火星周回軌道への投入に成功。アジア初。
2019年	月面探査機「チャンドラヤーン2号」打ち上げ
2022年	有人宇宙飛行の実現を目指す

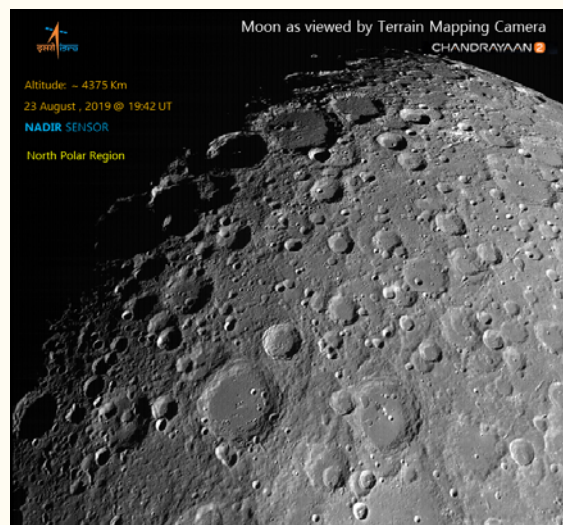
出所：各種報道よりイーストスプリング・インベストメンツ作成

チャンドラヤーン2号



チャンドラヤーン2号の打ち上げの風景

写真出所：インド宇宙研究機関（ISRO）



チャンドラヤーン2号が撮影した月面の様子

宇宙の研究開発成果は商業化も視野に

- ▶ インドの宇宙開発を担うのは、国家機関のインド宇宙研究機関（ISRO）です。ISROへの予算配分は年々拡大しており、2019/20年度のインド国家予算では、初めてその金額が1,000億ルピー（約1,514億円*）を超えました。
- ▶ 2019年3月、ISROや宇宙庁関連機関の研究開発成果の商業化を目的として、国営会社のニュー・スペース・インディア（NSIL）が設立されました。インドは低コストで衛星を打ち上げる技術を有しており、NSILの設立によって、インドが今後宇宙産業の主要なプレイヤーとして存在感を増すものと見られています。

* 1ルピー = 1.5138円で換算

※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。※また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。※また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。